資料２

第１回区民会議審議概要（抜粋）

【地域における子育て応援体制づくり】

○　一緒に活動に参加してもらうとか、また、お母さん同士で何か始めたいなという空気があったときには、見逃さずそこにフォローに入り、ある程度順調に動くまでだれかがついてあげるとか、そういう形の本当に受け身だけで終わらない自立した子育て支援がとても大事。そういうことをしながら地域に住む人間同士がいい形でつながっていく。（ママカフェ）

○　地域的や学校単位でやっているような形態は成り立つが、全く見ず知らず同士がいきなりやると間違いなくうまくいかない。ただし、本来はそれのほうが正しい関係性だと個人的には思っている。（公園井戸端会議）

○　中原区の子育て関係の事業の親子講座というこども文化センターの事業で、子育て世代のお子さん（２・３歳児）を対象に、お母さんたちが安心して参加できるような子育ての事業として、コンサート、手づくり作品、子供と一緒の作品つくりを中原区内の多くのこども文化センターで行った。イベントみたいなものをすごく必要とされており、子育て世代がたくさん住んでいて、これからもまだまだ住む人が多い中原区で、こういう事業をもっとたくさん数をふやして、中原区の資源を生かすような形でたくさんやっていければいい。

○　子育てをやっている最中にあのような地震があった場合、どういう対応をして、どういう避難をして、どうやればみんな安全になるかというようなことも同時に行う。

○　保育士さんの卵のまだライセンスを取っていない人と一緒にやっていく。その人たちの実践にもなり、ライセンスの取り方についてもある程度楽になっていく。

○　悩み事などのカウンセラーができる人を入れて、子育てをやりながら子供さんと一緒にお母さんの悩みを受け、そのお母さんが今度は受ける側としてできるようになればいい。

○　上丸子小学校の総合学習、「命の授業」に協力して、平成19年から子育てサロンを開催している。また、西丸子小学校でも子育てサロンを開催する予定である。子供を抱くということで、小学生は本当に感動する。８月には中学生が子育てサロンに参加する。

○　地区社協と地区民協の会長連名で福祉協力員制度というのをスタートさせる。福祉協力員には、民生委員・児童委員との役割分担で、高齢者のいわゆる見守りを担当し、民生委員・児童委員は子供にさらに重点を置いて活動してもらう。この福祉協力員制度について、環境的にもその担い手とされる団塊の世代が地域に戻ってくることが期待でき、児童虐待が減少に転じた中原区をさらに安全で安心な明るい住みよい町とするために、この地域における子育て応援体制を構築していく。

資料２

【「地域における子育て応援体制づくり」として「とどろきアリーナ」の避難生活者にできること】

○　どうしても小さいお子さんを抱えているお母さんがとても疲れており、何か休憩できるような時間がつくれたらといい。

○　できれば親子一緒に私たちが支えるもしくはお手伝いできることも必要。

○　心のケアが必要。

○　信頼関係ができて、その上で初めて心を許して人に悩みを打ち明けるわけです。突然私たちが区民会議の者ですが、何か困っていることはございませんか、悩みを言ってくださいなんて言っても、だれも言ってくれないと思う。課題調査部会でじっくり練った上でやっても遅くはないかもしれない。